

編 集 後 記

環境問題や異常気象、また経済危機や汚職事件など、暗い話題ばかりのなかで1997年が暮れました。本学会誌も7巻2号を数え、今回は総説1編、論説2編、原著12編、短報9編、資料1編を掲載しております。各学科関連の論文が出され、大学院生によるものも含まれていて、学際性の広がりを感じ取られるように思われます。

いうまでもなく本誌は川崎医療福祉学会の機関誌で、わたくしはそちらの運営委員も兼ねております。ふつうの学会では学術集会で発表されても、なかなか論文として出てこないことが多いのに対し、本学会の研究集会は本誌の賑わいにくらべて少し寂しいように感じます。これは、領域があまりに広くて、理解や関心がカバーしきれないことに一因があるでしょうが、他分野の研究者に対して分かりやすく説明し議論を求めていく姿勢に不足はないでしょうか。本誌の論文においても、読者は会員相互であるわけですから、その認識を高め学際性をみのりあるものにするための努力が常に求められるように思います。

年末に、本学会にも大きく関係する法案がいくつか国会可決されました。最も国民生活に影響するものとして介護保健法、そのほか言語聴覚士法などが成立して、そのもとでの医療福祉がどのように実現されていくか注目されるところです。それに向けて、本学会誌にも意欲的な論文が投稿されることを期待しております。

編集委員 松 本 真

川崎医療福祉学会誌の第7巻1号および2号（1997）の編集に当たりまして、編集委員の他に、次の方々のご協力をいただきました。紙面をお借りいたしまして、深く謝意を表します。

竹内 一夫	（川崎医療福祉大学	医療福祉学部	医療福祉学科）
武村 早苗	（川崎医療福祉大学	医療福祉学部	医療福祉学科）
宮岡 京子	（川崎医療福祉大学	医療福祉学部	医療福祉学科）
深井喜代子	（川崎医療福祉大学	医療福祉学部	保健看護学科）
太湯 好子	（川崎医療福祉大学	医療福祉学部	保健看護学科）
近藤 芳朗	（川崎医療福祉大学	医療技術学部	医療情報学科）
吉岡 豊	（川崎医療福祉大学	医療技術学部	感覚矯正学科）
木村 一彦	（川崎医療福祉大学	医療技術学部	健康体育学科）
長尾 憲樹	（川崎医療福祉大学	医療技術学部	健康体育学科）
河原 和枝	（川崎医療福祉大学	医療技術学部	臨床栄養学科）
国安 勝司	（川崎医療福祉大学	医療技術学部	リハビリテーション学科）
草信 正志	（川崎医療短期大学	医療秘書科	

（敬称略）

編集委員長 緒 方 正 名